

アドトラザーザ皮下注150mg シリンジ

【この薬は？】

販売名	アドトラザーザ皮下注150mg シリンジ Adtralza S.C. Injection
一般名	トラロキヌマブ（遺伝子組換え） Tralokinumab (Genetical Recombination)
含有量 (1シリンジ1mL中)	150mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するとき特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、ヒト型抗ヒトインターロイキン（IL）-13モノクローナル抗体と呼ばれる注射薬です。
- ・この薬は、IL-13に結合し、アトピー性皮膚炎の病態において重要な役割を担うIL-13の働きを抑えることで、症状を改善します。
- ・次の病気の人に処方されます。

既存治療で効果不十分なアトピー性皮膚炎

- ・この薬はステロイド外用剤やタクロリムス外用剤などの抗炎症外用剤による適切な治療を一定期間受けても十分な効果が得られず、強い炎症を伴う皮疹が広範囲に及ぶ患者さんに使用されます。
- ・原則として、この薬を使用するときにはアトピー性皮膚炎の部位の状態に応じて抗炎症外用剤が併用されます。

- ・この薬を使用するときも保湿外用剤が継続使用されます。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・過去にアドトラゼに含まれる成分で過敏症のあった人
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。
 - ・寄生虫に感染している人
 - ・長期にステロイド内服療法を受けている人
 - ・妊婦または妊娠している可能性のある人
 - ・授乳中の人
- この薬は寄生虫感染に対する防御機能に関わっている可能性がある I L - 1 3 の働きを抑えます。寄生虫に感染している人は、この薬を使用する前に寄生虫の感染に対する治療が行われます。

【この薬の使い方は？】

- ・この薬は注射薬です。
- ・この薬は、医療施設において皮下に注射されます。

●使用量および回数

- ・使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。
- ・通常、成人の使用量および回数は、次のとおりです。

一回量	初回	2回目以降
	600mg	300mg
	4本	2本
使用回数	2週に1回	

- ・この薬は、通常使い始めてから16週までには効果が得られます。16週までに効果が得られない場合には、使用が中止されることがあります。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬は病気を完治させるものではありません。この薬の使用中也保湿外用剤などを継続使用する必要があることを十分に理解できるまで説明を受けてください。理解したことが確認されてから使用されます。
- ・この薬を使用している間は生ワクチン [麻疹 (はしか)、風疹 (ふうしん)、おたふく風邪、水痘 (みずぼうそう)、BCG など] の接種はできません。接種の必要がある場合は主治医に相談してください。
- ・長期ステロイド内服療法を受けている患者さんは、この薬の使用開始後に経口ステロイド剤を急に中止しないでください。経口ステロイド剤を減量する必要がある場合には、医師の管理のもとで徐々に行われます。
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください。重大な副作用と、主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
重篤な過敏症 じゅうとくなかびんしょう	寒気、ふらつき、汗をかく、発熱、意識の低下、口唇周囲のはれ、息苦しい、かゆみ、じんま疹、発疹

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	寒気、ふらつき、汗をかく、発熱
頭部	意識の低下
口や喉	口唇周囲のはれ
胸部	息苦しい
皮膚	かゆみ、じんま疹、発疹

【この薬の形は？】

性状	無色～黄色の澄明または乳白光を呈する液
形状	

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	トラロキヌマブ（遺伝子組換え）
添加剤	酢酸ナトリウム水和物、氷酢酸、塩化ナトリウム、ポリソルベート80

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：レオファーマ株式会社 (<https://www.leo-pharma.jp/>)

カスタマーコールセンター

電話：0120-89-0056

受付時間：9時～17時30分（土、日、祝日を除く）